

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471902120	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	令和4年12月1日
法人名	特定非営利活動法人福祉ワーカーズコープふれんど		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	( 238-0024 ) 横須賀市大矢部3-30-6		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和4年11月4日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私たちのホームは来年創立20周年を迎えます。  
高速道路、横々を下に見る閑静な団地の一角。三角屋根の洋館はこの20年ですっかり地域に馴染み、朝は「おはよう!」、庭に雑草が目立ち始めると草刈りまでしていただき本当に感謝しております。  
ホームと共に年を重ねたベテラン職員が芯となり、子育て中の若きパパ、ママ職員が育っていくのを入居者様たちが見守っている、まさに大家族といえるアットホームが私たちの特徴です。笑顔・笑顔が一番の理念、手づくりの熱々のお食事、広いリビングでは入居者様が一日中歌ったり体操したり、洗濯物をたたんだりと楽しそうに過ごされています。可愛いホームで目の行き届いた介護と暮らしを共にこれからも頑張っけてゆきます。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年12月9日	評価機関 評価決定日	令和5年1月27日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京急線「北久里浜」駅より京急バスで「佐原橋」下車、徒歩15分の高台にあります。大矢部小学校に隣接した静かな住宅地にある広い敷地の邸宅を改造した2階建ての和風創りの建物です。同敷地内には児童デイサービス事業所も併設され日々、子供の遊ぶ姿や声が見聞きできる生活環境です。

<優れている点>

NPO法人として20年前に立ち上げた時の思いのこもった理念である「一つ屋根の下で大家族として共生、笑顔、学び、臨機応変」を大切に育て継承しています。週3日勤務の看護職員の健康管理、緊急時の相談、駆けつけ対応と長年の協力関係にある医療機関の内科、精神科医師による隔週、月2回の訪問診療による医療サポートが入居者、家族や職員の安心に繋がっています。

<工夫点>

経験のある職員を中心に入居者の人格を尊重し、思いや意向を大切にしながら一人ひとりの状況に合わせた「臨機応変」に対応しています。日常のサービスの内容を職員でよく話し合い、職員全員の周知で支援に繋がっています。日々の介護に必要な福祉情報や新聞記事を連絡ノートに直に「必読メモ」として貼り付け、周知を図っています。外出が難しい中、職員の特技やアイデアを生かしたアクティビティケアを行っています。また、配送業者のメニューをもとに調理師資格のある複数の職員が中心になり、日々工夫して美味しい食事を提供することで、食べる喜びと健康維持に努めています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームふれんど
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・職員ミーティングなどで度々職員と共有している ・また、キッチン、リビング、2Fフロアなどに貼ってある	「ふれんどの4つの理念」を掲げて、入居者の生命と暮らしを守り、育てることに努力を重ねています。臨機応変の事態に対応力を出せるよう職員は常に理念にもとづき、具体的な対処の方法を話し合っています。理念は目立つところに掲示をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会とはつながりを持ちお世話になっているが、最近コロナの為あまりご近所とは顔を合わせていない	コロナ禍の中でも、町内会のゴミ掃除に参加しています。近所の方が施設の庭の草取りをしてくれたり、初夏に沢山実る枇杷をお裾分けするなど、交流を大切にしています。施設開催の「敬老会」では職員手作り「ぼた餅」の楽しみもあり地域連携の機会として再開が待たれます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの事情で昨年よりあまり活かすことはできない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議で出たことをミーティング及び市に出す記録に記している	コロナ禍により書面会議でしたが、9月から家族・民生委員・社会福祉協議会や地域代表による対面会議を再開しています。活動報告や、コロナ感染時の乗り越えた経験、入居者の様子などを報告しています。横須賀市への要望や職員の新しい活動などの相談もしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の指導監査、生活担当その他と度々連絡している	生活保護関係で定期的な連絡はしていますが各種の福祉情報はおもにメールで受けています。横須賀市主催の研修にもできる限り参加をしています。認知症ケアの会、大矢部・衣笠地域グループホーム連絡会の情報交換会などの再開も待っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	拘束は全くしていない	玄関は施錠していますが居室の施錠はしていません。身体等拘束廃止委員会では運営推進会議時と合わせて実施しています。安全のための夜間の起床時等の感知センサーは家族の了解のもと必要時に設置しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のミーティングや研修などで学び合っている また、職員の気分転換に配慮している	虐待防止委員会の定期開催や職員の虐待防止に向けた研修や「自己点検シート」をもとに防止に向けて話し合いと確認をしています。虐待に繋がりにかぬ職員へのストレスや「手を出しかねない思い」がたまらないよう管理者は常に気を付けて支援に繋がっています。	職員自らがストレス時の感情のコントロールが出来るよう、その時の対応を箇条書きの合言葉として掲示して、相互防止、啓発に努めることが期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	過去には成年後見を利用している入居者様も複数おり、理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族にはゆっくりと説明し、図に書いたり写真を見ていただき納得してもらっている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や度々近況をお知らせする手紙の交換などで意見をきき、介護に反映させている	運営推進会議に出席をして意見を聞いています。毎月の請求書発送時に本人の様子や沢山の写真を同封して日常の様子を伝えています。必要な時は積極的に電話を掛け、近況報告の中から要望や意見を聞き出しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		申し送り連絡ノートをもとに行うホームミーティングでは、進行などの役割を輪番制にした話し合いの場を作っています。その中で、職員が工夫し新しいアクティビティ支援を生み出しています。その一例に、直接伝える手紙「私の話を聞いてください」もあります。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めている 個人個人によって持っているものが違うし、条件も違うがポイントの3つは共通だよ、と言っている	何でも言える水平的な組織作りをしています。職員の置かれている一人ひとりの環境に配慮し、話し合いをしながら勤務シフトの作成をしています。緊急時にシフト対応をできる条件なども、こまめに話し合いをして進めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	机の上の研修だけが本当の研修ではないこともよく言っている。 経験者を見て学ぶ	理念の「学び」を、入居者と関わる具体的な支援の中で反芻する機会としています。年間研修計画を立て、職員の看護師による研修会やリモート研修、横須賀市の研修にも参加しています。資格取得に向けた外部研修は費用補助の支援もしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	いろいろなホームに世話になり情報ももらっている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	努めているがその難しさを強く感じる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族との対話で希望、ホームに依頼される事情をとことん聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	それを一番重要視してご家族の現状を大切に考えている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	そのように理念に基づき努めているつもりです		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	なかなか面会のできない一年でしたが写真やお手紙を出し喜んでいただいた		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	コロナの為今年あまり続けられなかった	横須賀市の横出サービス（市区町村が独自にする支援）の美容サービスを利用して馴染みの美容師が来ています。近くの馴染みの公園散策、稲荷神社、ミカン狩り、回転寿司などの外出支援も続けています。手紙、電話による継続支援も続けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知もだんだん重くなって利用者同士が関わり合うという場面は少なくなっているが何となく仲間同士の雰囲気は持っているように見える		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了すると1～2ヶ月は交流があるがそれ以上は切れてしまっている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりにどうする？どう思う？とお聞きするよう努めている	「今日は何の日」「どうしたい」の声掛けや、入浴時の会話から思いを聴いています。七夕の短冊作成時にも思いを書いてもらっています。「自由になりたい、お寿司・刺身が食べたい、軍歌は聞きたくない」などの思いの発露の実現に結び付けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にその認知症の持つ深さを知る為に若いときからの生活歴を詳しく聞かせてもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護日誌記録に毎日個人別に時間ごとの記録をつけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングの時など計画者はみんなに問いかけ意見を聞きつつ計画を作成している	介護プランは、職員看護師が家族の要望、職員の意見を聞き記録して3ヶ月ごとに見直しの上6ヶ月ごとに作成をしています。個々の介護記録に介護目標を添付し、毎日経過時間ごとの様子を記録しています。気になる変化は赤字で追記して様子を共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は細かいことまで丁寧に観察したことを書いて職員みんなが朝共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	時とすると体調の変化などですぐ多岐に変わってしまうこともある。その変化に油断できず職員も懸命に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	この2～3年コロナで自由に楽しむことができていない		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科、精神科と二か所の往診医にお願いしている 長い付き合いなので互いに信頼しており、いつも頼りにしております	内科医、精神科医を毎月、各2回ずつ受診しています。週3回、職員看護師が日々の健康観察と細かい健康状態を医師に繋げ、家族と同伴で診察を受ける場合もあります。精神科の認知症診断や血液検査も定期的に受診しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ナースがいつもいますのでみんな緊張しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーの方と良く話します		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	共有し、人生最後の日々をみんなで送らせてあげようと頑張ります	入居時に説明と「終末期を迎えるに当たっての確認書」の承諾を得ています。容態が悪化した場合は医師、看護師、職員、家族と話し合い「申し合わせ書」で再確認し、看取りに事業所が一体となって関わっています。今年度も看取りの経験をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	しています		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	しています	年2回の避難訓練をしています。11月、昼間の火災訓練を実施し、消防署に実施報告を行い助言を受けています。次回は、消防署立ち合いのもとでの消火訓練を計画しています。隣接する施設との協力支援、夜間には職員の駆けつけ体制も出来ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一番気をつかうところです	一人ひとりの考えや思いを尊重し、利用者の同じ言葉の繰り返しを聞いても、初めて話してもらうような姿勢を心がけています。だめ、だから、でもを使う3D言葉の言葉遣いに注意しています。入居者がそれなりに納得するまで待ちながらゆったりとした対応で支援につなげています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一生懸命しています だんだん答えられなくなる人もいて悲しいです		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	以前は希望を訴えることもあったが、現在、みんな重症となり希望をこちらが思いやってあげなければならない人が多くなった。 無理のない支援となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服装はとても気をつかいます		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	お茶碗を拭いてくれたりテーブル拭きなどをしてくれています	業者から食材とメニューが届き職員が手作りしています。数名の調理師資格の職員が中心になり、メニューを入居者の希望を聞き、アレンジしています。その日の体調に合わせてやわらかい食事、刻み、とろみと臨機応変に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分を摂るたびにその量を記録に一日に1000~1200CC摂るようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	きちんとしている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	行っている	排泄記録に、尿、便、水分摂取量、5パターンの便形態を記録しながら体調観察をしています。水分量にも配慮し1リットル以上を目指し、こまめに声掛けをしています。毎日の朝食ではヨーグルト、納豆を出して、便秘予防と改善に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	バッチリ取り組んでいる		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	している。みんな楽しみにしている	入浴は、週2回です。入浴を拒否されないようにその日の体調や気分に合わせて「声掛け」を工夫し、意思を尊重して日や時間に柔軟に対応しています。1対1の介助でゆったりとした時間を作り、日頃聴けないことを話して貰い、職員は大切に共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は一人ひとり違うので一番気をつけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者さん一人ひとりの趣味を聞き出して、それに応えた介護をしている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一昨年まではしていたが、近年コロナでやっていない	コロナ禍前は、地域の公園や神社への散歩や、買い物などへ出かけています。車での遠出の外出も実施しています。感染防止のため現在は、玄関先や中庭での日光浴や、敷地周りを歩いて外の空気に触れています。春には車での桜見会も実施し、「外に行きたい」個々の思いにも寄り添っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は所持しているがお金を使う気にはならない人が多い		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族とよく手紙の交換はある入居者自身はできないが読んであげたり代わりに返事を書くときもある		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとの壁の貼り絵を製作し貼っていたが最近みなさん重症になり作品をつくっていないので昔の作品を出してきて貼っている	台所から全体が眺められるリビングは家庭的な雰囲気となっていて、職員の声掛けが届きやすい環境となっています。クリスマス飾りで季節を感じたり、歌やレクリエーション、人の気配が安心感となり、寛げる共生の場所となっています。リラックスしリビングのソファは昼寝をする場所にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	時々席を変えたり、職員と対話できるように1対1の席を作ったりしている。楽しそうに会話している		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	飾るのが好きな方と嫌いで取ってしまう方がいる。各々の居心地のよさが違うので迷うこともある	備品として、ベッド、クーラー、照明、カーテン、布団があります。部屋ごとに、間取りや広さが少しずつ異なります。各自でテレビ、箆笥、戸棚を置き、個々の好みでその人らしい部屋となっています。居室担当が、衣類の整理、季節の衣替えを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立して楽しんでいるのは少数派で最近ではコロナで自立度が低くなっている		

2022年度

事業所名 グループホームふれんど  
 作成日： 2023 年 2 月 1 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	ミーティングの場で職員もどんどん意見を出しているが、個人的な考えなどももっと遠慮なく出してもらいたい。気軽に上司に個人面談を申し入れる雰囲気をつくりたい。	ホームの運営についてだけでなく、職員の抱えている悩みなど含めて上司に気軽に相談できる場・時間を持つ。	上司への一言箱を設置し、話し合う日を要求したり提案のメモを入れる。	6ヶ月
2	7	虐待は行っていないがこれを維持していくためにもっと積極的に方法を模索していく。	虐待にならないように、職員みんなで協力しましょう！	「STOP!それは虐待かもしれない」「STOP虐待!深呼吸1.2.3」「お仕事一寸替わってください〜い!」のキャッチフレーズを大きく壁に張り出す。	6ヶ月
3	13	研修に行く回数が少ない。時間を何とかして、もう少し学習をしたい。	どんどん研修に参加し、日々の現場に活かそう!!「学びが大切!」を忘れずに。	新人に対して優しく教えることが重要。「うるさい」と思われない教え方も研究すること。	12ヶ月
4	60	コロナの影響で戸外に行けない。	コロナに負けず対策をきちんととって今年は外へ!	暖かい日、天気の良い日。季節をしみじみ感じる花々を見るためにも、いつでも出かけられるような体制をとりたい	12ヶ月
5					ヶ月